

『私にとっての給食』

兵庫県神戸市立井吹の丘小学校 六年三組 女子 工藤 鈴華

三時間目が終わって五分休みの時間、今日も私は先生の机の横のこんだてをチェックします。そして、四時間目の授業中は、すぐくすぐく給食が気になって、少し前に見たこんだてを想像しては、時計を見てしまいます。学校で過ごす大好きな時間ランキングがあれば、まちがいなく一位は給食です。配膳する時から、いいにおいがして、わくわくするし、先生や友達と食べる給食は、楽しくて美味しく最高のひとつです。

私は体が小さくて、背の順は一番前ばかり。一年生の時は、おかずもご飯もどれもたくさん減らして、時間内にも食べられませんでした。「これくらいは食べましょう。」と言われてあまり減らしてもらえず、目の前の給食を見つめながら『食べれなかったらどうしよう』と、涙が出そうになる時もありました。だから低学年の頃、給食の時間はあまり好きではなかったです。でも、いつのまにかたくさん食べられるようになって、六年生の今ではおかわりも出来るようになりました。そして五年生から始まった委員会活動では、給食委員会に入り、調理師さんとも関わる様になって、もともと給食が大好きになりました。

この小学校にいる児童、千十五人に対して、調理師さんは七人です。私の家族四人分のご飯を作ってくれるのはお母さんで、毎日大変だなあと思うけれど、調理師さんはさらに大変です。

食べ終わった、大おかずや小おかずの食器を次々と給食室にみんなが持って来ます。私も委員会活動で、お手伝いをする時があります。その時、みんなが「ごちそう様でした。」と調理師さんに言うのですが、調理師さんはどんどんやってくる食器を片づけながら、

「はーい。」

とみんなに笑顔で答えてくれます。とっても大変そうなのにニコニコしてくれています。私はそんな調理師さんを見て調理師さんのことも、大好きになりました。なので、少しでも調理師さんの役に立ちたいと思う様になって、色々考える様になりました。調理師さんが、一生けん命作った給食を残す事ほもったいないし、調理師さんも悲しみます。出来るだけいっぱい食べて、どのクラスも完食してほしいと思うようになりました。

私の目標は、『残食なし』です。そのために、委員会活動で、完食を呼びかけるキャンペーンに取り組みしました。みんなが残食なしを心がけられるように完食できたクラスには表彰したりします。すると少しずつ残食が少なくなり、残食なしに近づいていきました。このまま完食の輪が広がって、どのクラスからも残食の無い給食になっていったらいいなと思っています。

調理師さん、美味しい給食をありがとう。給食大好きです。